

方を睥睨するの大觀あるものと想ひたりしに、其の地形より見るも略々當年の状況を察し得べくして、左迄のものならざりしは明かなり。然れとも孟嘗君の客鶏聲を作して關吏を欺きしは前程に在る古函關にして關は西漢以後此地に移されしものこす。

騎馬函谷關を過ぎて更に西すれば、則ち新安シンアンの東門に出づ。其れより上坡約四五十米突、同西門に到りて宿泊す。行程約十里。新安城は高く山上に築かれ、城内高低同しからず。昔日或は要衝の地たりしならんも、今は更に其の所以を認めず否な寧ろ厄介の地と稱する恐らくは誣言に非らざるべし。本日通過せし道路は其の幅約三米突内外、概ね凹道、就中磁澗鎮及十二里堡附近は、路面石礫馬蹄に觸れ憂々の音を發して行程甚だ悩み、車輛の通過又一層の困難を感じ、殊に十二里堡西方の高地脚を甚しとす。要するに一般の地勢盆地を成し、四面皆山、中央は稍平坦開濶の形勢に在り。

二十五日午前五時三十五分新安出發。初驛の十二里堡は、人家僅に十餘戸、棗、柳、楊樹多く、屋壁皆石を以て疊む。高平寨カオピンサイ（人家約八十）廟頭ミヤオト（約百人）鐵門鎮テイメンチエン（人家約七十戸）李寨リサイ